

平成 22 年度事業報告
(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

社団法人日本馬術連盟 (JEF) は、平成 22 年 1 月 22 日の第 93 回通常総会において承認された平成 22 年度の事業計画および収支予算に基づき、理事会の決定・承認のもとに以下の事業を実施した。なお、一部については、期中に補正を行った。また、3 月 11 日に発生した東日本大震災により、予定していた一部の事業の中止または延期を余儀なくされた。

平成 22 年度は、USA・ケンタッキーで開催された Alltech FEI 世界馬術選手権大会 (WEG) と中華人民共和国・広州で開催された第 16 回アジア競技大会 (2010/広州) への対応が中心的な事業であった。

WEG については、その出場資格を得ることのできる国際馬術連盟 (FEI) 公認馬術大会 (CDI3*、CCI3*、CIC3*) の日本国内開催を平成 21 年度から引き続き JEF 主催で実施し、馬場と総合の 2 種目で各 2 頭、計 4 頭が資格を取得することができた。そこでヨーロッパで活動する選手と合わせてチーム (各 4 人馬) での出場が実現した。障害馬術は、選考基準に則りヨーロッパで活動する選手の中から 4 人馬を選出した。エンデュランスにおいては、会員団体が主催する CEI3* (北軽井沢) で要件を満たし出場資格を取得した 5 人馬が出場した。日本選手団としては、これらに加えて、一般社団法人障害者乗馬協会が派遣したパラ馬場馬術チーム (3 人馬) を合わせて、5 種目へのチーム出場となった。

成績は、障害馬術では団体 14 位であったが、2 選手が「ベスト 30」に進み、杉谷選手が 10 位、福島選手が 24 位の好成績を収め、杉谷選手の成績から日本にロンドンオリンピックの個人出場枠 1 がもたらされた。馬場馬術では団体 13 位、法華津選手が準決勝のグランプリスペシャルに進み 31 位となった。総合馬術においては、3 人馬が完走し、団体 9 位であった。エンデュランスでは団体 18 位、完走は 5 人馬中 1 頭で、55 位であった。

アジア競技大会では、障害・馬場馬術に各 4 人馬、総合馬術に 5 人馬を派遣した。障害馬術では、選考基準により 3 人馬をヨーロッパから選出し、残りの 1 人馬を国内の選考競技会で選出し派遣した。馬場馬術はドイツと日本で審判員の巡回方式で選考競技会を行い、ドイツ予選から 1 人馬、日本予選から 3 人馬を選出した。総合馬術においては、選考基準によりヨーロッパから 2 人馬、日本国内から 3 人馬を選出した。

成績は、障害馬術では団体 7 位、平尾選手が 5 位、水山選手が 10 位となった。馬場馬術では団体 4 位、林選手が 5 位、猪野選手が 8 位となった。総合馬術では、全 5 人馬が完走し、団体優勝を果たした。個人においても佐藤選手が金メダル、大岩選手が銅メダルを獲得した。

なお、アジア競技大会は中国本土における初の馬の輸出入を伴う大会であり、中国政府は厳重な検疫体制を敷いた。日本から輸出された7頭については、御殿場市馬術・スポーツセンター（ドイツからの6頭はアーヘン馬術競技場）を中国への検疫施設として要件を満たすよう整備し、輸出検疫場所としての認定を受け、農水省動物検疫所の管理下で厳重な検疫が行われた。

JRA 特別振興事業は、平成22年度が4年目の最終年となった。これまでオリンピック（北京/2008）、WEG（ケンタッキー/2010）およびアジア大会（広州/2010）への派遣、これらの大会の出場資格を得るためのFEI公認大会の国内開催、トップライダー活動支援など多くの事業をJRA特別振興事業として実施した。オリンピックやアジア大会はもちろんWEGへのチーム出場の実現はこれらの事業によるところが大きく、平成23年度以降もこれに類する事業の継続が望まれる。

公益法人制度改革にかかわる移行事務については、内閣府公益認定等委員会事務局への相談を重ね、予定通り平成23年度秋の申請に向けて準備作業を進めている。

平成16年4月から稼働しているJEF管理システムは5年のリース期間がすでに満了しており、不都合も生じていることから、新たなシステムの再構築に着手した。平成22年度末までに新システムへの移行を予定していたが、若干の遅れがあり立ちはげは平成23年度初頭となった。

3月11日に東北から関東にかけての大規模な地震と津波、原子力発電所の事故により、馬術関係にも甚大な被害をもたらされた。JEFとしては被災地への救援物資の輸送、義援金の募集、避難受け入れ施設の仲介など、幅広く被災地の支援事業を実施した。

各事業については、以下のとおり；

1. 各種馬術競技会の主催および公認

- (1) 全日本障害馬術大会（パートⅠ、パートⅡ）、全日本馬場馬術大会（パートⅠ、パートⅡ）、全日本総合馬術大会（パートⅠ、パートⅡ）、全日本エンデュランス馬術大会を主催した。また、JOCジュニアオリンピックカップ大会として障害・馬場・総合の各全日本ジュニア馬術大会を主催した。さらに、第65回国民体育大会馬術競技（千葉県勝浦市）を文部科学省他の団体とともに主催した。
- (2) JEF主催により、FEI公認馬術大会を開催した。
- (3) 日本国内で会員団体が主催するFEI公認馬術大会の開催を支援した。
- (4) JEF公認競技会のカテゴリ制・馬のグレード制を円滑に運営し、活性化に努めた。

2. 馬術競技に関する各種規程等の制定

- (1) JEFの各種規程の制定および改廃を行った。

- (2) FEI 各種規程の制定・改廃に対応して、国内規程を改正し、FEI 規程の国内適用を図った。

3. 国際馬術競技会等への参加および人馬の派遣

- (1) USA で開催された WEG (2010/ケンタッキー) の 4 種目 (障害・馬場・総合・エンデュランス) にスポーツ振興基金および JRA 特別振興事業の助成金を活用して選手団を派遣した。障害・馬場馬術の代表選手選考競技会はドイツで開催する予定であったが、両種目とも対象者が 4 選手以内であったため実施しなかった。障害馬術は、ヨーロッパで活動する選手の中から選考基準によって 4 人馬を選出した。馬場・総合馬術については、国内で主催した FEI 公認馬術大会で、各 2 人馬が出場資格を取得し、ヨーロッパで活動する選手を含めて選考基準によって 4 人馬を選出した。エンデュランスは、国内で開催された FEI 公認馬術大会で出場資格を取得した 5 人馬を選出した。
- (2) WEG に参加する代表馬をヨーロッパおよび日本から USA に輸送した。国内での輸出検疫は農水省動物検疫所の管理下で実施した。
- (3) 第 16 回アジア競技大会 (2010/広州) 馬術競技の 3 種目 (障害・馬場・総合) に選手団を派遣した。その代表人馬を選考するため、馬場馬術については、ドイツと日本で選考競技会を開催した。障害馬術の代表選考に当たっては、候補者が員数に満たなかったためドイツでは審査会として実施し、日本で予選会を実施して 1 人馬を選出した。総合馬術は選考基準によって 5 人馬を選出した。なお、選手団の派遣は連盟からの推薦により JOC によって行われる。
- (4) アジア競技大会に参加する代表馬をヨーロッパおよび日本から中国に向け輸送した。輸送に先駆けて中国政府が要求する輸出検疫を、アーヘン (ドイツ) および御殿場で実施した。御殿場での検疫については、農水省動物検疫所の管理下で行われた。なお、帰国を想定した日本および欧米から中国本土への馬の輸出は史上初であったが、日本から輸出した 6 頭およびドイツから輸出した日本代表馬 7 頭は、中国における輸入・輸出検疫も円滑に実施され、予定通り帰国することができた。
- (5) 世界各国における FEI 公認馬術大会に参加する日本選手を支援した。
- (6) 国際レベルの選手を育成するため、ジュニア層の発掘および強化に努め、海外の競技会・強化訓練等に選手を派遣した。
- (7) 国際競技会等へ選手・役員を派遣し競技力向上ならびに海外情報収集に努め、併せて国際交流・親善を深めた。

4. 馬術の普及および競技力の向上

- (1) 騎乗・調教技術の向上を図るため、海外からコーチを招聘して強化訓練を実施した。

- (2) 競技役員を養成するため、FEI 公認の講習会・研修会等に適格者を派遣した。
- (3) FEI 公認および JEF 主催の講習会・研修会を開催した。ただし、3月11日に発生した東日本大震災の影響で FEI 障害コースデザイナー講習会および JOC 選手強化委託事業ジュニア障害馬術強化合宿は中止した。
- (4) 組成団体に対しその加盟する団体が所有する馬匹について、飼育費助成および優秀乗馬助成を行った。また、都道府県馬術連盟および組成団体の事業費・事務費の助成を行った。
- (5) 馬事関連団体と連携し、馬術の普及・振興に努めた。
- (6) 文部科学省の進めるナショナルトレーニングセンター中核拠点施設整備の馬術競技強化拠点として御殿場市馬術・スポーツセンターを活用した。
- (7) 優秀な成績を上げた選手をナショナルチームメンバーに認定した。
- (8) 将来を担う若手の育成のため、各地区で研修会を実施した。

5. 会員および乗馬の登録

- (1) 会員および乗馬の登録を行った。
- (2) 会員サービスの向上および業務の円滑化を図るため、JEF 情報システムの再構築を行った。(23年度も継続)
- (3) 国際競技に出場する人馬の登録業務を行った。
- (4) 馬の個体識別に関する知識を広め、登録業務の円滑化を図った。

6. 各種資格の認定

- (1) 主催・公認競技会・国際競技会参加のための騎乗者および競技役員の資格認定・登録を行った。
- (2) 審判員等技術役員新規資格者の認定、および資格保持者の技術向上のため講習会を実施するとともに、都道府県等が開催する講習会を規定に基づいて公認した。
- (3) 都道府県等が開催する騎乗者資格認定のための講習会を規定に基づいて公認した。
- (4) 指導者養成の講習会を開催し、準コーチおよび公認馬術コーチ（日本体育協会公認スポーツ指導者）の増員を図った。

7. 馬術に関する事項の調査研究および指導奨励

- (1) FEI およびアジア馬術連盟の活動に参加し、国際情報の迅速な収集に努めた。
- (2) 主催競技会および FEI 公認大会において馬ドーピング検査を実施した。
- (3) 厩舎保安管理体制の強化および関係者に対する指導を通じて、馬のドーピング防止に努めた。
- (4) 日本アンチ・ドーピング機構(JADA)と協力して、競技者のドーピング検査を

実施した。

8. 競技馬の資質向上

- (1) 競技馬のレベルアップのため、優秀な成績を収めた乗馬に対して奨励金を交付した。
- (2) 競技馬の資源確保および調教技術向上を図るため、優秀な成績を収めた内国産馬（元競走馬を含む）に対して奨励金を交付した。また、優秀な成績を収めた内国産乗用馬の生産者に対して感謝状を贈呈した。
- (3) 内国産馬の振興を図るため、内国産馬限定競技を主催競技会に組み入れるなど、内国産馬の活用を促進した。

9. 機関誌等の発行、ウェブサイトの充実および広報活動

- (1) 月刊機関誌「馬術情報」を刊行した。
- (2) 「馬術情報」とウェブサイトをリンクし、各種情報を迅速に広報した。
- (3) マスメディアに対し情報を積極的に提供した。

10. 人馬の表彰

- (1) 当該年度の国内外競技会において、優秀な成績を収めた人馬を表彰した。
- (2) 永年に亘り馬術界に功績のあった人馬を表彰した。

11. 国際馬術競技力向上推進支援事業

- (1) WEG の出場資格が取得できる FEI 公認馬術大会を開催した。また、同大会で WEG 出場の資格を取得し新たに海外活動を行う選手に対して、馬輸送費・選手渡航費の助成を行った。
- (2) 海外に活動拠点を置き WEG 出場に必要な資格を取得した選手(トップライダー)に対して、海外活動の支援を行った。
- (3) WEG 出場のための人馬の派遣経費およびアジア競技大会出場のための馬輸送費を標記事業として支出した。
- (4) アジア競技大会の代表人馬選考競技会の開催費を標記事業として支出した。

12. その他の事業

- (1) 公益社団法人の認定取得のため種々の検討を行い、申請に必要な事務を進めた。
- (2) 平成 16 年 4 月から現在まで 7 年間使用した JEF 管理システムの償却終了に伴い、新システム構築のための作業を行った。
- (3) 東日本大震災被災地への救援物資の輸送、義援金の募集、避難受け入れ施設の仲介など、被災地の支援事業を実施した。

【会員数】

区 分	H22.3.31 (a)	入会者	退会者	H23.3.31 (b)	差引増減 (△:減)	対前年比 (b)/(a)	備 考
(1)正会員	70	0	0	70	0	100.00	
イ. 都道府県馬術連盟	47	0	0	47	0	100.00	
ロ. 組成団体	4	0	0	4	0	100.00	H22.3.31 登録数修正 5→4
ハ. 学識経験者	19	0	0	19	0	100.00	
(2)普通会員							
イ. 個人普通会員	6,666	582	724	6,524	△142	97.87	H22.3.31 登録数修正 6,665→6,666
ロ. 団体1種会員 (組成団体加盟団体)	285	14	14	285	0	100.00	
全日本学生馬術連盟	84	0	1	83	△1	98.81	
全日本高等学校馬術連盟	98	12	7	103	5	105.10	
日本乗馬少年団連盟	68	1	4	65	△3	95.59	
日本社会人団体馬術連盟	35	1	2	34	△1	97.14	
ハ. 団体2種会員 (都道府県馬術連盟加盟団体)	349	19	13	355	6	101.72	

【乗馬登録数】

区 分	H22.3.31 (a)	登録	抹消	H23.3.31 (b)	差引増減 (△:減)	対前年比 (b)/(a)	備 考
乗馬登録数	3,763	558	577	3,744	△19	99.50	

平成22年度 FEI登録者数

	選手	馬匹
障害馬術	52	72
馬場馬術	19	27
総合馬術	15	27
エンデュランス	10	23
パラ馬術	9	2
合 計	105	151

平成22年度 FEIパスポート交付・更新数

新規交付	39
更新	15
再発行	1